

【満鉄関連年表と山崎元幹の事績】

西暦	世界・アジア・日本	満鉄関係	山崎元幹
1889	2.11 大日本帝国憲法発布		7.7 福岡県福吉村（現二丈町）に生まれる
1894	7. 日清戦争(-1985.4)		4. 福吉尋常小学校入学
1904	2. 日露戦争(-1905.9)		4. 佐賀県立唐津中学入学
1905	9. 関東都督府設置		
1906	2. 韓国統監府設置	6.7 設立に関する勅令公布	
1907		11. 後藤新平、初代総裁に就任	
1908	11. 清国、光緒帝没、西太后没、溥儀即位	4.1 営業開始	
1914	7. 第1次世界大戦起こる	7. 後藤総裁退任	
1915	1. 大隈内閣、中国に「21か条要求」	5. 全線で広軌運転を開始	
1916		3. 大連図書館開館、8. 大連ヤマトホテル開業	
1917		2. 大連汽船株式会社を設立	5. 東京帝国大学法科大学政治学科卒業、満鉄入社、総務部交渉局第一課勤務
1918	11. 第1次世界大戦終結	10. 撫順炭鉱、千金寨の露天掘りに着手	職制改正により総務部文書課勤務となる
1919	6. ベルサイユ条約締結	5. 鞍山製鉄所を設置	1. 荒井須磨と結婚
1920	1. 国際連盟発足	4. 関東都督府を廃止し、関東長、関東軍を設置	12. 欧米留学（1920.12~23.9）
1921	7. 中国共産党結成	10. 大連一長春間急行列車復活	
1922	2. 日本、山東半島を中国に返還	1. 鄭通線（鄭家邨-通遼）開通	
1923	3. 中国、21か条条約破棄を通告	11. 鄭洮線（鄭家邨-洮南）開通	9. 社長室文書課参事となる
1924	11. モンゴル人民共和国成立	2. 上海事務所を設置	
1925	3. 孫文病死（59歳）		6. 撫順炭鉱参事。 8. 撫順炭鉱庶務課長となる
1926	7. 蒋介石、北伐開始		
1927	3. 金融恐慌が発生 4. 蒋介石、南京政府を樹立 5. 第1次山東出兵	4. 満鉄社員会発会式 10. 山本総裁、張作霖と「満蒙5鉄道建設請負秘密協定」を締結 11. 打通線（大虎山-通遼）開通、満鉄併行線形成	10. 満鉄社長室文書課長となる
1928	6. 張作霖、爆死 9. 東北交通委員会を設置 12. 張学良、易幟	2. 撫順炭鉱、頁岩油工場建設に着手 12. 撫順炭鉱製油工場、生産開始 この年、瀋海・吉敦・呼海線開通	
1929	10. 世界恐慌が始まる	7. 東亜経済調査局が分離独立	6. 総裁室文書課長に変更
1930	4. ロンドン軍縮条約に調印	7. 大連港甘井子石炭埠頭、使用開始	6. 職制改正に伴い交渉部渉外課長に変更
1931	9.18 満洲事変	9. 満洲事変発生に際し、満鉄は軍に全面協力	7. 総務部次長となる
1932	3.1 満洲国、建国	3. 昭和6年度決算は、創業以来初の赤字決算	10. 満鉄理事となる
1933	3. 国際連盟を脱退 10. 新東北交通委員会成立	3. 鉄道総局、鉄道建設局を設置 10. 関東軍の満鉄改組案が表面化	
1934	3. 満洲国、帝政を実施 12. 日本、ワシントン海軍軍縮条約を破棄	9. 満洲電業株式会社設立 11. 特急「あじあ」（大連-新京）運転開始	
1935	3. 満ソ両国「北鉄譲渡協定」に調印 11. 中国共産党、抗日救国宣言	8. 新京-哈爾濱間240kmを改軌 11. 天津事務所設置 12. 満洲拓殖株式会社設立	
1936	2. 2.26事件起きる	10. 鉄道関係業務を鉄道総局に一元化	10. 任期満了により理事を辞任。小田原に新居を移す。
1937	7. 北京郊外盧溝橋で日中両軍が衝突 12. 南京占領	12. 付属地行政施設を日満両国に譲渡。地方部を廃止 12. 満洲重工業開発株式会社設立	9. 満洲電業（株）副社長となる
1938	日本政府、国家総動員法を公布	4. 産業部を調査部に改組、地質調査所・農事試験場を満洲国に譲渡 10. 釜山-北京間に「大陸」運転開始	10. 満洲電気化学工業（株）理事長となる
1939	5. ノモンハン事件 9. 第2次世界大戦始まる	4. 調査部拡充。「支那抗戦力調査」などに着手 華北交通株式会社設立	12. 同理事会長となる。
1940	3. 王兆銘が南京に国民政府樹立 9. 日独伊三国同盟に調印	10. ダイヤ改正。輸送力増強、日本海経由輸送及び北辺重視	12. 満洲電業株式会社副理事長となる。
1941	4. 日ソ中立条約調印	11. 撫順の製鉄工場稼動が本格化	
1942		9. 第一次調査部事件、31名検挙	1. 満洲電化（株）理事長兼務 4. 満鉄副総裁となる 調査部長事務取り扱い
1943		7. 第二次調査部事件、10名検挙	
1944			
1945	8.15 日本、無条件降伏	1. 第四次増資（14億円→24億円） 9. GHQ、満鉄の閉鎖を命令	5.15 満鉄総裁となる 9.30 GHQの指令により満鉄総裁を解任
1946	5. 東京裁判開廷	5. 引揚げ第一船が壺盧島を出港	
1947	5. 日本国憲法施行		8. 山崎夫妻ら長春を退去、10月小田原に帰着
1948	10. 中華人民共和国建国		3. 満鉄社友新生会会長に就任
1951	9. 対日講和条約に調印		
1953		3. 留用者のほとんどが帰国	
1954			11. 財団法人満鉄会会長に就任
1955			10. 海外移住審議会委員となる
1957		4. 満鉄の清算結了登記、満鉄消滅	6. 公共企業体審議会委員となる
1963			11. 須磨夫人逝去 12. 小田原十字町教会で洗礼を受ける。
1971			1.24 自宅にて逝去

アジ研図書館所蔵の山崎文書

国会図書館所蔵山崎文書  
(他に満洲電業関係文書)

小田原市立図書館所蔵山崎文書

早稲田大学中央図書館